車』のような「工学」に分類される本は、科学史の研究者をのぞいて、「理工系」からは時代遅れとして「文系」からは専門外として見過ごされる傾向にある。しかし、こうした古い理工系の本もまた、現代社会の科学技術を考えるための一級資料なのである。

来年度、原則として理工系部局由来のバックナンバーセンターの雑誌が桂キャンパスに移転される予定である。それによって、「理系」と「文系」の本が混淆する空間が京都大学から少なくなることは間違いない。つまり、わたしにとって『戦車』がそうであったように専門外の面白い史料と偶然出会えるような空間、「装甲風力自動車」のような珍物と遭遇する空間が少なくなるのだ。これは、総合大学として危機的だとさえ思う。現代社会はむしろ、サイバースペースでは成立困難なこうした知的空間を、桂にせよ、宇治にせよ、吉田にせよ、分離ではなく敢えて創造していくような図書館を必要としているからだ。

以下は後日談。戦後、猪間駿三はプラント輸出の専門家となり、ビクターオート、日本製鋼所、神戸製鋼所、日本硝子、千代田化工建設で働き、日本の高度経済成長期の海外進出の一翼を担うことになる。経済学部の図書室には『プラント輸出の実務――ある技術者の体験』（1970）という彼の著作があるが、そこで猪間は「日本人には人種差別の観念がない」からその国民性を海外進出の武器にすべきだと主張している（著書に『戦車』を記すことも忘れない）。この「懲りていなさ加減」が、彼を技術者として生きさせただけでなく、現代日本を「プロジェクトX」的「科学技術創造立国」へと向かわせようとしている。「可愛い」と思うほど戦車に魅せられたこの技術者を批判する道は、解剖するほど人間に魅せられたあの芸術家の作品を批評するのと同じほど果てしなく、また険しい。しかし、それは、カビ臭い理工系の図書にもっとたくさんの愛を注ぐことから始めるしかない。

（ふじはら　たつし）

バックナンバーセンター（Back Number Center;BNC）の移設計画

バックナンバーセンター（以下「BNC」という）は、附属図書館・本館（以下「本館」という）地下２階の北側書庫内に設置された国内外の雑誌のバックナンバーから構成されています。

BNCは、昭和58（1983）年に本館が新築されたのを機会に、学内の図書館・室の狭隘化を解消し、資料とスペースの効率的な利用を実現する一助として昭和60（1985）年１月に設置されました。普段は利用度が低いなどの理由から、手元の図書館・室になくとも、本館に収蔵して利用できればよい雑誌を18の部局図書館・室が選択し、本館に移管しスタートしました。このため、該当雑誌の刊行時期は、少なくとも30年以上以前に遡ります。なお集中した際に重複資料は１組に整理され、集密書架に収められています。

その後、昭和63（1988）年度に４部局から追加搬入があり、合計すると19部局からの9,859タイトル、148,608冊になっています。（以下これを「BNC1」とします）これ以降は、収納スペースの関係から、大規模な追加搬入は見送ってきましたので、部局からのBNC1への増加はありません。

一方、本館が購入等で所蔵している雑誌のバックナンバーは、書庫内の別の場所に排架され泣き別れ状態にあり利用上不便でした。これを解決して利用上の便宜を向上させるため重複整理を行ってBNCに統合しました。これは、

5,697タイトルです（以下これを「BNC2」とします）。これらはBNC1と一括されBNCの名称の元に提供されてきました。この統合の結果、新しい雑誌も相当数がBNCに混排されるようになっています。

現在OPACで検索しますと、所蔵先がBNC表示となっているタイトル数は、和雑誌9,680タイトル、洋雑誌5,912タイトル、合計15,592タイトルになっています。

BNCのタイトル数

BNC１	BNC２	合　計
9,895	**5,697**	**15,592**

（データ等は、2005.12.6.現在）

BNC開設後20年を経て、新たな収納スペースの確保が必要となってきており、概算要求も含めて、確保方策に取り組んできました。このような状況の中で、（桂）図書館棟の建設が寄付により実現されることとなり、（第2回）桂図書館建設WG（平成17(2005)年8月）において、桂図書館基本計画として自動化書庫を設置し、BNCのうち自然科学系雑誌を移設することが決定されました。

この決定を受けて、図書館協議会幹事会で検討した結果、「BNC移設に関する部局の意向調査」「BNC利用実態調査」を元に、移設対象の雑誌を決定していくことになりました。

「部局の意向調査」は10月、「利用実態調査」は11月に実施し、その結果や様々な意見を踏まえて、（第3回）図書館協議会（開催：12月15日）において、以下の内容が了承されました。

①移設する資料の対象範囲

対　象：理系部局から移管された雑誌バックナンバー

対象外

（１）移管元が文系部局の雑誌バックナンバー

（２）理系部局から移管された雑誌バックナンバーのうち、対象外にする申し出があり、図書館協議会での最終審議の結果、対象外とする雑誌バックナンバー

（３）雑誌以外の資料（例：年鑑、調査報告、年次報告等雑誌以外の逐次刊行物）

②（桂）図書館棟で予定している移設資料の利用方式

○直接的利用

出納方式による閲覧・複写

○デリバリー

e-DDS（オンライン・デリバリー）、複写物のデリバリー

＊経費が許す限り、柔軟な対応を考慮する。

＊現物のデリバリーは、学内デリバリーシステムにおいて考慮する。

○長期大量利用

利用度によって、附属図書館・本館に戻す措置を考慮する。

その後、役員懇談会の決定により、（桂）図書館棟の自動化書庫が建屋建設時とは別調達設備となったため、移設も当初予定より遅れる見通しとなりました。

移設雑誌の決定までに、時間的な余裕もでき、期限を3月31日に延長して、上記①の（２）に関し、対象外希望雑誌の申し出の受け付けを終了したところです。

BNCの一部はすでに、京セラ文庫「英国議会資料」恒温恒湿室として転用されていますが、移転後の空スペースの再利用、再配置も併せて計画を行う予定です。

これらの情報は、ホームページ上

http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/BNC/framebnc.html

でもご覧いただけます。